中国東北辺境地域における新たな成長拠点の形成と貿易構造転換

陸 亦 群 安 田 知 絵

1. はじめに

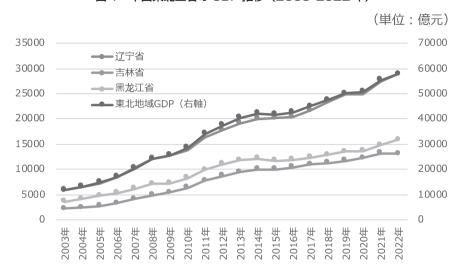
本稿は、ユーラシア内陸地域に地続きする北東アジア経済圏にフォーカスし、東北三省(黒龍江省、吉林省、遼寧省)に限定しながら、貿易構造転換が辺境地域¹⁾の成長拠点の形成にどのようなインパクトを与えたか明らかにすることを目的とする。

1978 年 12 月に開かれた中国共産党第 11 期中央委員会第 3 回全体会議において経済体制の改革が決定され、対外開放政策が計画された。これが鄧小平指導体制下の「改革・開放」の始まりであった。中国政府は 1980 年から順次、深圳、珠海、汕頭、厦門、海南島に 5 箇所の経済特区を設置し、1984年の鄧小平談話『沿海部分都市座談会紀要』(中発 [1984] 13 号)の公表を契機に、大連、秦皇島、天津、煙台、青島、連雲港、南通、上海、寧波、温州、福州、広州、湛江、北海の 14 沿海都市が開放された。一連の改革開放政策の実施の恩恵を受け、長江デルタ、珠江デルタ、閩南トライアングル、山東半島、遼東半島、河北省、広西チワン族自治区を経済開放区として沿海経済開放地帯が形成され、沿海地域に高い経済成長が遂げられた。そして中国政府は 1990 年に上海浦東新区の開発と開放を決定し、長江沿岸都市の開放をさらに進め、長江開放地帯を形成し、1992 年以降は辺境都市や内陸の全ての省都と自治区首府を開放した。1992 年の鄧小平の「南巡講話」以降、社会主義市場経済体制が確立され、再び改革開放が推し進められた。沿海地区においては市場経済化が進み、経済成長は一気に加速した。一方で、都市と農村、沿海部と内陸部の地域格差は深刻化し、内陸地域の経済発展は取り残された。

1990年代末になって、江沢民・朱鎔基政権がようやく格差是正と一層の経済改革に取り組むことになった。1999年6月に江沢民が「西部大開発」を提起し、開発戦略の地域へのシフトを転換させた。それに続く胡錦濤・温家宝政権は2003年10月に、東北三省(遼寧省、吉林省、黒龍江省)における「東北旧工業基地振興政策」、いわゆる「東北振興」戦略が提起され、辺境地域にも目を向けるようになり、国境線を中心に隣接国間の取引、いわば「辺境貿易」が許可され、やがて辺境貿易は辺境地域の経済発展戦略の一つとして位置付けられるようになった。そして習近平体制の下、中国政府による2013年以降の「一帯一路」、「十四五」、「双循環」といった新局面において、辺境地域の「開放」は重要な課題として改めて取り上げられた。また、国発(2019)16号では、黒龍江省が「自由貿易試験区」の追加指定地域に含まれた。改革開放30年以来、初めて隣接国との交流拠点である辺境地域に「自由貿易試験区」が設立されることになった。

東北三省において、2003年の「東北振興」以降、経済は右肩上がりの成長を見せたが、沿海地域との地域間格差と相俟って地域内格差も現れた。図1から読み取れるように、2022年度の遼寧省のGDPは吉林省の2倍強、東北三省のGDP合計は全国トップの広東省の約45%程度となっていて、地域内格差と地域間格差は依然として大きい、中国の地域経済格差には重層的な要因が絡んでいると考えられ

図 1 中国東北三省の GDP 推移 (2003-2022 年)



出所) 中国国家統計局データをもとに筆者作成. (http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日)

る. 初期条件の差異に開発政策的バイアスによる開発の遅れが重なり, 辺境地域を含む内陸地域と沿海 地域の格差のみならず、地域内の格差も顕在化した.

東北三省について言えば、毛沢東時代の重工業化開発戦略により、重厚大型産業に偏重した産業構造をもち、国有企業の割合が高い、そのため、中国政府が地域の産業構造を転換し、新たな成長エンジンを育成するための自由貿易志向型政策を導入するのが妥当であろう。世界経済のグローバル化において、国際貿易関係が深化するなか、これまで自律的な経済発展の達成が困難だとされた中国辺境地域に新たな発展の可能性はあるのか、本稿は先行研究を踏まえて、貿易構造が中国辺境地域とりわけ東北三省の成長拠点の形成にどのような影響を与えたかについて考察していきたい。

2. 先行研究と本研究の課題

2.1 これまでの研究

中国の辺境地域経済に関する研究は 1990 年代以降から数多く蓄積されてきている。中国辺境地域発展の歴史的推移および政策論的分析において、庄芮、宋薈柯、張暁静(2021)は、現在の中国辺境地域の開放には、インフラ整備の遅れ、産業集積の貧弱、ハイエンド的な要素の不足やイノベーションの欠如などの問題を依然として抱えていると指摘し、「一四五」の新しい局面において、インフラ基盤の整備、協力のプラットフォームの構築、特色ある産業の育成、国境付近地域の疫病予防と管理などの側面から、現実に合わせた政策調整を行い、辺境地域の発展と開放の新しいパターンの形成を促進すべきとの見解を示した。また、申桂萍、胡偉、于暢(2021)では、辺境地域における経済発展の現状および特徴の時系列的分析を通して、辺境地域全体として発展と開放が遅れていること、辺境都市の開放と都市開発は目覚ましく進んでいるが、開発の成果が地域住民に恩恵をもたらしておらず、産業の空洞化の特徴が著されていることが確認された一方、国境沿いの経済回廊は加速度的に改善され、経済と貿易の協力を背景とした科学教育協力と人文交流は確実に成長しており、国境沿いの全面的な開放は辺境地域の経済発

展の新たな特徴となっていることを明らかにした.

中国辺境地域は少数民族の居住地でもあって、民族問題に関する研究が数多く挙げられる。民族問題とその歴史、族群、民族教育、民族移動に関する代表的なものは、坂本(1970)、張(2005)、謝(2010)、馬(2013)らの研究である。辺境地域の地域経済に焦点をあてた丸山(1994)、楊(2005)、Kim(2008)らによる研究では、辺境貿易理論と歴史からアプローチし、隣接する地域との経済関係を明らかにした。また、張(2006)は、国境付近に位置する都市、つまり辺境都市の双方向機能を分析し、国境付近という特殊な立地条件活かして貿易などを通し経済発展に必要な環境を整えることが可能となり、貿易は地域全体の経済発展を促進する重要な要素であり、辺境都市に自由貿易区の設置が望まれることを明らかにした。

中国東北地域や北東アジアを対象とした研究として、Jin (2013)、Won (2015) が挙げられる。Jin (2013) と Won (2015) は東北地域と北東アジアとの地域間協力についてその現状と特徴について整理し、今後の発展の可能性について論じている。経済発展と貿易の役割については、安田、陸 (2019) は、貿易と経済開発の視点から、中国東北地域の開発問題に焦点を当て、都市化の経済と貿易の役割を分析し、東北地域には一次産品と工業製品の2つの貿易ルートが併存することを確認し、輸出の拡大から始まった貿易は、輸出入が共に拡大することにより、この地域はやがて貿易中継地の役割を果たすようになり、輸出構造の高度化を伴いながら輸出財生産拠点へ変貌していく経済開発のプロセスがこの東北地域に内在することを明らかにした。

2.2 本研究の着眼点と研究課題

かつては重工業や資源産業が中心とした東北三省では国有企業の割合が高く、既存産業に外資を導入することや、国内産業移転を含む産業誘致により産業構造を転換し、新たな成長拠点を形成させるには無理がある。また21世紀の今、経済発展だけでなく、環境保護と持続可能な発展への取り組みが求められ、新たな成長拠点の育成はこの時代の要請に応えなければならない。辺境貿易を通じて、東北三省はすでに貿易中継地として成り立っているが、その先の持続可能な発展に向けて、従来の貿易パターンから輸出牽引型の貿易パターンへのシフトが必要とされ、貿易の新たな役割が期待されると考える。これが本研究の着眼点である。

先行研究についてであるが、中国辺境地域発展の歴史的・制度的分析、民族問題に関する研究、立地 条件、辺境、国境付近地域の貿易、地域経済協力、地域経済発展と貿易の役割に関する研究、産業集積、 新しい成長拠点の形成、都市化経済に関する研究などに関する先行研究は数多く挙げられる。

本稿は、先行研究の成果を踏まえて、貿易構造の地域経済に与えるインパクトに着目している。一般に隣接する国が貿易をすれば利益が得られるが、辺境貿易は当該の地域経済にどのような利益をもたらすのか、経済格差の解消、そして持続可能な成長をどのように実現するかを研究課題とする.

3. 貿易パターン、成長拠点と都市化の経済

3.1 中国辺境地域発展の時期的推移

中国辺境地域発展について確認しよう。中国辺境地域発展は主に3つの段階に分けられる。第1段階は1992~2002年となり、この段階では経済格差の縮小を重要な政策目標として掲げた。第2段階は2003~2012年となり、WTO加盟をきっかけに、国境地域の開放が強化され、辺境と辺境口岸においては貿易が一定の実績を積み上げた。

規模の経済 のもとでの その都市へのより 需要効果 多くの消費者(=労働者) の集積 その都市へのより 後方 実質所得の上昇 前方 多くの特化した 連関効果 財価格の低下 連関効果 企業の立地 その都市におけるより 多様性への 多様な消費財(製造品) 嗜好のもと の供給 での実質所 得効果

図2 内生的集積のプロセス

出所)藤田(2005)を参考し筆者作成.

2013年から第3段階に入った.この第3段階においては、国境沿い地帯の開発と開放を初めて国家 戦略として位置付けられ、辺境地域の開発と開放の政策支援体制が形成された.貿易統計から読み取れ るように、第2段階から一次産品を主とする貿易パターンが現れ、東北辺境地域は貿易中継地としての 役割を果たすようになった.第3段階の2013年以降、遼寧省において製造品を中心に対外貿易がいっ そう拡大し、この地域では製造品を主とする貿易パターンが顕著に現れ、やがて東北辺境地域には一次 産品貿易と製造品貿易の2つのパターンが併存するようになる.

3.2 循環的産業集積のプロセス発生

ここではまず、産業集積のプロセスについて確認しよう、藤田 (2005) の解釈によれば、ある都市により多くの消費者が集まれば、消費者の多様なニーズにより消費の多様性が生まれることになる。この都市に多様な消費財が供給されれば、消費財価格が下落し、労働者の実質所得が上昇し、消費者の効用 (満足度) が高まる。図2で示したように、前方連関効果が発生し、市場規模が大きくなる。個別企業は輸送コストを抑えるために市場規模の大きい地域に立地し、そこでより多くの企業が多様な財を供給することになり、後方連関効果をもたらすことになる。

一方、より多くの企業が立地された地域では、消費者(=労働者)は多様な財をより安く手に入ることで、実質所得の上昇につながる。そしてこれらの地域では多くの雇用機会が増えたため、多くの労働者がこれらの地域へ移動する。多くの企業が集まれば、労働に対する需要が増え、その地域にはより多くの消費者(=労働者)が集まることになるであろう。また、多くの消費者(=労働者)が集まれば、同じような循環のプロセスが始まり集積が始まると考える。これによって市場はさらに拡大し、さらに多くの企業がそこに立地することになる。各企業レベルでの規模の経済性が循環的連関効果を通じて都市レベルでの収穫逓増を生み出すことになり、このような内生的循環的な集積のプロセスを通じて、経済活動は特定の場所に集中し、新しい成長拠点ないし都市が形成される。

図3 貿易を起点とする成長拠点の形成の流れ

貿易発生(輸出入の拡大)
↓
高付加価値貿易財の生産と輸出
↓
貿易構造の高度化
(一次産品から製造品への貿易パターンのシフト)
↓
対内直接投資の拡大
↓
製造品生産に特化した企業の立地
↓
内生的集積のプロセスの発生と産業集積力の増強
↓
新たな成長拠点の形成

出所) 筆者作成.

図2で示されたように、企業の立地選択と消費者(=労働者)のどちらから始まっても、前方連関効果と後方連関効果の循環的な作用によって産業集積のプロセスが発生し都市の集積が始まる。究極にいえば、貿易を起点としてある地域に財の供給を増やせば、安価な財を求めて消費者(=労働者)が集まり、そこに企業が集まれば多様性が生まれ、集積のプロセスが始まることは可能であろう。

3.3 辺境地域における貿易の拡大と成長拠点の形成

貿易との関連性について考えよう. 一般に隣接する国が貿易をすれば利益が得られるが, 辺境貿易の拡大は特定の地域経済にどのような利益をもたらすのか. 貿易は経済成長のエンジンであり, 貿易をすれば利益が得られる. 辺境貿易は分業の利益をもたらすとともに, 辺境地域の「開放」に伴う貿易の拡大は, 内生的集積のプロセスを通じて, 経済活動は特定の場所に集中し成長拠点を形成させ, 都市化の経済を発生させる効果をもつのではないか. これが本稿の第1の仮説提起である.

初期の貿易構造では、主に原材料や農産物、鉱物資源などの一次産品が取引されるが、図3で示したよう、貿易の拡大によって高付加価値貿易財の生産と輸出が可能になる。それに伴って貿易構造が高度化していくと、高度化した貿易体制では、製造品や高度な技術を必要とする製品が取引され、高付加価値貿易財の生産と輸出ができるようになる。貿易構造転換いわば貿易構造の高度化は一次産品から製造品への貿易パターンのシフトとして捉えられ、これは一般に、その国地域の産業の進化、技術の向上、生産力の増加を意味する。

ある国の貿易構造が高度化すれば、その国はより魅力的な投資先となり、対内直接投資(FDI)の拡大を促進する可能性がある。また、ある国地域が他国からの対内直接投資を引き付けることで、その国地域の産業の進化を促すとともに、技術移転をもたらし、新たな貿易機会を生み出すことになり、その国地域の貿易構造を高度化することになる。このような貿易構造の高度化と対内直接投資の拡大相互作用により、図3に示された流れで分かるように、製造品生産に特化した企業がこの地域により多く立地

経済科学研究所 紀要 第54号 (2024)

成長拠点 形成 製造品貿易 の拡大 対内直接投資 の拡大 特化した企業 の立地

図4 成長拠点形成の4要素モデル

出所) 筆者作成.

することで、内生的集積のプロセスの発生と産業集積力の増強が誘発され、やがて新たな成長拠点が形成されていくと考える²⁾.

貿易は新たな成長拠点の形成に重要な役割を果たしている。Krugman(1995)では、Murphy、Shleifer and Vishny(1989)に呈示したモデルに依拠して現代版ビッグ・プッシュ論の有効性を示した上、産業集積の考え方を経済開発モデルに組み入れ、経済開発プロセスは低開発地域に新しい成長拠点が形成される過程であることを明らかにした。一方、発展途上地域においては、初期条件あるいは歴史的偶然が産業立地に無視出来ないほど大きく、時にはネガティブなインパクトを与え、成長拠点形成の阻害要因にもなっている。これらのマイナズな要素を取り除くには政府の役割が期待される。政府による産業立地への介入は、ある地域に産業集積が形成される過程で大きな影響を与えている。本稿では、成長拠点の形成には、製造品貿易の拡大、対内直接投資の拡大、特化した企業の立地の3要素に「開放・振興政策の実施」を加えて、「成長拠点形成の4要素モデル」を提示した。図4で示したように、政府による産業立地への介入は、ある地域に産業集積が形成される過程で大きな影響を与えるものであり、製造品貿易の拡大、対内直接投資の拡大、特化した企業の立地、そして開放・振興政策の実施の4要素を有機的に循環することにより、都市化の経済が発生し新たな成長拠点が形成されると考える。

経済発展のプロセスはある地域に新たな成長拠点が形成される過程であり、貿易が大きな役割を果たしている同時に、この過程においては当該地域の貿易構造に影響も強く受けている。また、経済活動のグローバル化において、フラグメンテーション型分業が展開されており、ある地域の産業分布は、技術格差、要素賦存、そして産業の初期分布などの初期条件に依存している。一般に、ローカルマーケット規模が相対的に大きい地域や、対外輸送費用が相対的に低い国境付近地域には集積力が相対的に強くなり、貿易効果と相まって都市化の経済を発生させるが、一次産品貿易の拡大を起点とした成長拠点の形成と、製造品貿易の拡大によって誘発された成長拠点の形成は、異なった様相の都市化の経済が窺えると考える。次節において、辺境地域経済の現状を踏まえて議論を進めていきたい。

3.4 辺境地域経済の現状と課題解決に向けて

中国東北三省は豊富な資源を持つ地域であり、石炭、鉄鉱石、石油、天然ガス、森林などが主要な資 源として挙げられる。東北三省は中国最大の石炭生産地域の一つであり、特に遼寧省と黒龍江省では、 大規模な石炭鉱山が存在し、中国のエネルギー需要を支えるために重要な役割を担っている、この地域 は鉄鉱石の豊富な埋蔵量を保有し、特に遼寧省は中国の主要な鉄鉱石産地であり、鉄鋼産業において重 要な供給源となっている.黒龍江省や吉林省には石油や天然ガスの埋蔵量が豊富であり.これらの資源 はエネルギー需要の増加に対応し、中国国内のエネルギー自給率の向上にも貢献している、吉林省や黒 龍江省には広大な森林資源に恵まれ、紙やパルプ産業の重要な木材供給源となっている.また.東北三 省は農業が盛んな地域であり、穀物や大豆、トウモロコシ、トウガラシなどの生産のほか、野菜や果物 なども栽培されている。東北三省は長い歴史を持つ産業集積地域であり、多様な産業が集中している。 まず、鉄鋼産業についてであるが、東北三省は豊富な鉄鉱石の産地であることから、鉄鋼産業が盛んで いる、特に遼寧省の鞍山や本溪、黒龍江省の斉々哈爾(チチハル)が鋼鉄企業の集積地として知られて いる、これらの地域では、製鉄所や鉄鋼の関連企業が集積し、かつての毛沢東時代から中国の鉄鋼生産 の中心地として重要な役割を果たしている. 東北三省は中国の自動車産業の重要な基盤でもある. 吉林 省の長春市は中国自動車の生産拠点の一つであり、一大自動車産業クラスターが形成されているともい われ、自動車メーカーの第一汽車製造廠(現・中国第一汽車集団)や部品サプライヤーがこの地域に集 中している.

黒龍江省や遼寧省には石油化学産業があり、石油精製、石油化学製品の製造などが行われている。また、東北三省では、機械産業の発展も注目され、農業の重機械、鉱山機械など、多くの機械メーカーが立地している。さらに、農産物加工業も東北三省に集まり、穀物や大豆、トウモロコシ野菜などの農産物の加工業をはじめ、食品加工業や畜産加工業などがこの地域に集積している。

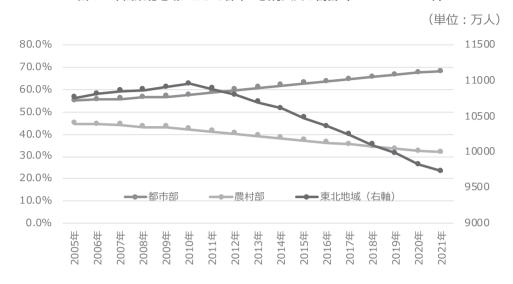
これらの産業集積は東北三省の経済発展に重要な役割を果たしており、地域の経済成長と雇用創出に 貢献している.

東北三省は「改革・開放」以前から中国の主要工業地帯であり、石油・天然ガス等の重要資源の生産拠点としての役割を果たしてきた。しかし、東北三省の産業構造は重厚長大型の国有企業を中心としたものであった。そのため、地域の産業構造を転換させるのが難しく、また、対外開放措置の導入時期の遅れなどの要因とも重なり、東北地域は中国全体の発展から取り残されたと考えられる。2000年以降の「東北振興」戦略では、発展阻害要因の解消に取り組んできたが、根本的な解決に至っていない。これが辺境地域とりわけ東北三省における地域経済の特有な問題であり、歴史的に残された課題である³⁾、「東北振興第12次5カ年計画」においては、主として資源型都市の構造転換と体制メカニズム改革の推進の2つの課題に絞られたが、本稿は、2つの課題のみならず、「貿易構造転換」という第3の課題を意識する必要があると考える。

これらの課題解決に道筋をつけなければ、東北三省は新たな発展段階を迎えることが出来ないといっても過言ではない。では、沿海地域との格差そして東北地域内格差を含む経済格差の解消、そして持続可能な成長をどのように実現するか。本稿は、産業構造を転換させるより、貿易構造の転換を優先すべきではないかと考える。経済格差の解消、そして持続可能な成長を実現するためには、従来の貿易パターンから輸出牽引型の貿易パターンへのシフト、いわば一次産品を中心とした資源型貿易から高付加価値貿易構造への貿易構造の転換が必要であろう。これが本稿の第2の仮説提起である。

貿易は都市化の経済の拡大に重要な役割を果たしている. 経済開発プロセスは低開発地域に新しい成

図5 中国東北地域における都市・農村人口の割合(2003-2021年)



出所) 中国国家統計局データをもとに筆者作成. (http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日)

長拠点が形成される過程であり、この過程において外資誘致が大きな役割を果たしたことはいうまでもないが、貿易の発生または貿易中継地の確立も同じように都市化の経済を拡大させ、内陸地域に新しい成長拠点の形成を可能にするものである。経済格差の解消および持続可能な成長の実現のプロセスにおいて貿易の新たな役割が求められ、これが貿易の高付加価値化であろう。

既に前節で論じたように、貿易の拡大によって高付加価値貿易財の生産と輸出が可能になる。また、高度化した貿易構造では、製造品や高度な技術を必要とする製品が取引され、高付加価値貿易財の生産と輸出ができるようになる。このような循環を作り出すには、資源型産業を代替する多様な代替産業の育成が必要であり、新規産業のみならず既存産業の移転受け入れも含めた製造業等の発展に取り組むことが重要であろう。東北三省では、代替産業の育成が進むにつれて、重厚長大型の国有企業中心とした産業構造に変化が起きれば、雇用の受け皿が必要となる。代替産業の育成に伴って労働力が相対的に豊富になったこれらの地域において、労働集約型産業が比較優位を有することになる一方、雇用喪失、人口流出も懸念される。現実問題として、2010年の東北3省の人口はピーク時2010年の1億955万人から2022年の9,729万人に12年連続で減少し、人口減少に歯止めがかからない状況にある。したがって、新たな成長拠点を作り上げるには強い政策的誘導が必要であり、まずは労働集約型産業を中心とした製造業の産業誘致を優先すべきであろう。東北三省にとって雇用創出を念頭に如何にして貿易を起点とする成長拠点の形成の流れを作り出すかが新たな経済発展を見出すカギであると考える。

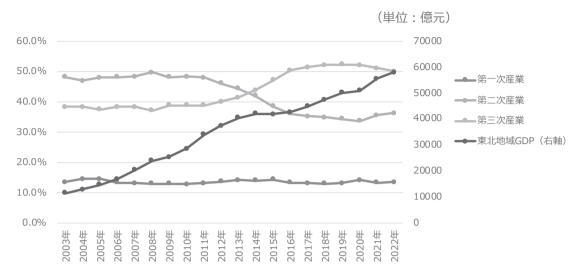
4. 貿易データによる統計的検証

4.1 中国東北三省の経済諸指標

東北地域の事例に焦点を当てみよう.都市の総人口の割合をみると、図5から読み取れるように、2005年の53.7%から2021年には68.2%へと上昇した.一方、農村人口の割合は、2005年の46.3%から2021年の31.8%に減少した.このことは、東北地域において都市化が進んでいると窺えるが、地域全

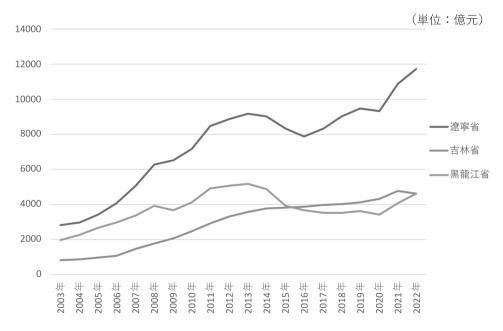
中国東北辺境地域における新たな成長拠点の形成と貿易構造転換(陸、安田)

図6 中国東北三省産業別の GDP 推移 (2003-2022 年)



出所) 中国国家統計局データをもとに筆者作成. (http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日)

図7 中国東北三省の第2次産業 GDP 推移(2003-2022年)



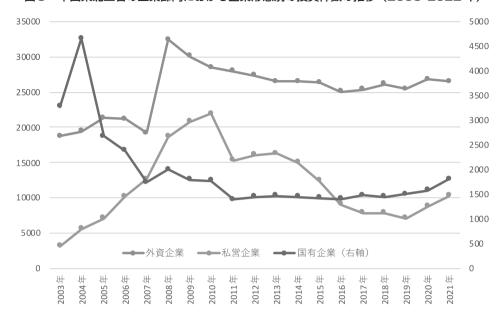
出所)中国国家統計局データをもとに筆者作成. (http://data.stats.gov.cn/ アクセス日:2023 年 7 月 25 日)

体を見ると、2011年から人口減少が始まった.人材の流出を防ぐために、地域内での魅力的な雇用環境を如何に整備するかが課題であろう.

中国東北三省産業別の GDP 推移から、図 6 から 2011 年以降に入ってから第二次産業が GDP に占める割合が低下し、第三次産業の割合は増加傾向に転じたと読み取れる。図 7 では、東北三省の 2003 年

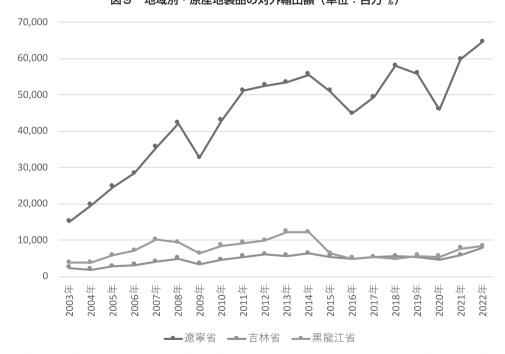
経済科学研究所 紀要 第54号 (2024)

図8 中国東北三省の工業部門における企業形態別の投資件数の推移(2003-2022年)



出所) 中国国家統計局データをもとに筆者作成. (http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日)

図9 地域別・原産地製品の対外輸出額(単位:百万^ト_ル)



出所)中国国家統計局データをもとに筆者作成. (http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日)

中国東北辺境地域における新たな成長拠点の形成と貿易構造転換(陸、安田)

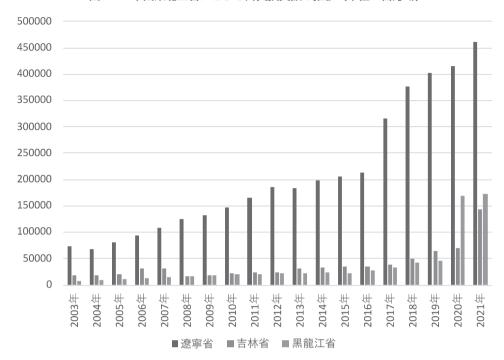


図 10 中国東北三省における外資投資額の推移(単位:百万年)

出所) 中国国家統計局データをもとに筆者作成. (http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日)

から2022年までの第2次産業産出高の推移を示している.

中国東北三省の工業部門における企業形態別の投資件数の推移でみると、図8で示したように、外資企業の投資件数はダントツに多く、2021年のデータでは、外資企業の投資件数は私営企業の約2.5倍となっているが、国有企業は投資件数全体の5%未満である。

辺境地域における対外貿易輸出額および外資投資額を比較してみよう. 図9で示した2003年以降の原産地製品ベースでは、遼寧省は右肩上がりとなっているが、吉林省、黒竜江省は横ばいの状態が続いている。また、外資投資額の推移で見ると、図10で示したように、遼寧省は右肩上がりとなり、2021年のデータでは、遼寧省は黒龍江省の約2.7倍、吉林省の約3.2倍となっている。外資投資額と対外輸出額との相関関係については改めて計量分析を行う必要がある。

4.2 中国東北三省の貿易の特徴

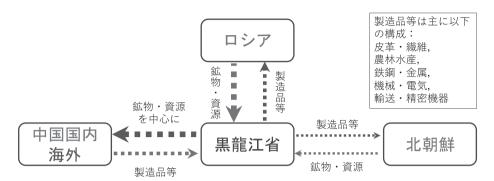
中国東北地域は土地が広く、貴金属、鉱物や石油など資源を豊富に保有している。毛沢東時代は重厚大産業を有する工業基地でありながら、中国の東北以外の地域向け、いわば国内向けに資源を供給し、資源供給地の役割を担っていた。改革開放以降も資源供給地の役割はほとんど変わらなかった。

2003年の「東北振興」の推進を契機に、黒龍江省はロシアとの資源貿易が拡大し、鉱物資源の国内向けの供給が強化されたが、天然資源に加えて農産物など一次産品の供給を中心とした貿易構造に大きな変化はなく、図11で示したように、貿易構造は内向き型貿易パターンとなっている。

吉林省の貿易構造は図 12 に示されたように、鉱物資源の国内向けの供給に加えて、製造品の国内外

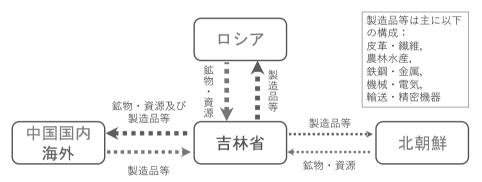
経済科学研究所 紀要 第54号 (2024)

図 11 黒龍江省における内向き型貿易パターン(一次産品貿易を主とする)



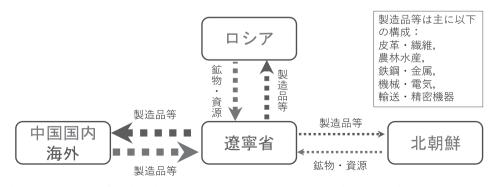
注) データ:中国国家統計局(http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日) 出所)安田(2016)の算出方法を元に、HS 分類で貿易特化係数を計測し、それに基づいてイメージを作成.

図 12 吉林省における内向き型貿易パターン(一次産品貿易を主とする)



注) データ:中国国家統計局(http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日) 出所)安田(2016)の算出方法を元に、HS 分類で貿易特化係数を計測し、それに基づいてイメージを作成。

図 13 遼寧省における外向き型貿易パターン(製造品貿易を主とする)



注) データ:中国国家統計局(http://data.stats.gov.cn/ アクセス日: 2023 年 7 月 25 日) 出所)安田(2016)の算出方法を元に、HS 分類で貿易特化係数を計測し、それに基づいてイメージを作成. の貿易量が増えたが、全体としては一次産品貿易を中心とした貿易構造に大きな変化はなく、貿易構造 は内向き型貿易パターンとなっている.

2003年の「東北振興」の推進を契機に貿易構造に変化の兆しが現れたのは遼寧省である。図 13 に示された遼寧省の貿易構造の特徴について確認しよう。製造業に外資を引き付け、製造品貿易を中心に対外貿易が拡大し輸出の右肩上がり成長が始まった。特に 2013年の辺境地域開放政策の実施以降、輸出がいっそう拡大した。貿易構造においては、製造品貿易を主とする外向き型貿易パターンが顕著に現れた。

4.3 分析結果

中国経済の高成長に伴い鉱物や資源を中心とする一次産品に対する需要が高まり、貿易は拡大した、中国東北三省と隣接するロシア、北朝鮮との国境貿易は、中国側が製造品を輸出し、資源保有国のロシア、北朝鮮から鉱物・資源を輸入する貿易構造となっており、辺境地域に隣接する特殊的な立地条件からみると国境貿易は地域全体の貿易に与えるインパクトが大きく、国境貿易効果が対外輸送コストの低下に有利に働くようになり、この地域全体が貿易中継地として成り立っている。

東北地域はかつて毛沢東時代の重工業化開発戦略により,重厚大型産業に偏重した産業構造を持っている.第2次産業の産出高で見ると,辺境地域開放第3段階の2013年以降,吉林省は2013年の3315.2億元から2022年の4628.3億元へ緩やかに増加したが,黒龍江省は2013年の5202.7億元から2022年の4648.9億元に減少した.一方の遼寧省は,2013年の8886.9億元から2022年の1兆1755.8億元へ順調に拡大した.

中国東北地域は土地が広く、貴金属、鉱物や石油などの豊富な資源を保有しているため、国内有数の工業基地の役割を果たしながら、中国国内向けの資源供給地の役割も担っている。改革開放以降しばらくの間はその資源供給地の役割は変わらなかったが、2003年の地域間経済格差の解消を背景とした「東北振興」の推進を契機に、貿易構造が次第に一次産品の供給を中心とした貿易から製造品貿易へとシフトし始めた。国境沿い地帯の開発と開放を初めて国家戦略として位置付けられた2013年以降、やがて東北辺境地域の貿易構造には一次産品貿易と製造品貿易の2つのパターンが併存するようになっている。遼寧省において製造品を中心に対外貿易がいっそう拡大し、この地域では製造品を主とする貿易パターンが顕著に現れた。一方、黒龍江省のケースでは、資源輸入に偏ることにより、貿易構造変化が起きにくく、吉林省のケースにおいては、製造品貿易が拡大し始め、製造品貿易パターンにシフトしつつあると考える。

遼寧省のケースから見て取れるように、製造品の生産輸出が拡大すれば、貿易構造が一次産品の貿易パターンから高付加価値貿易へシフトする。本稿は、このような貿易構造の高度化と対内直接投資の拡大相互作用により、製造品生産に特化した企業がこの地域により多く立地することで、循環的な集積のプロセスが発生し、貿易中継地から新たな成長拠点へ生まれ変わっていき、貿易構造の転換は経済格差の解消、そして持続可能な成長の実現を可能にするのであろうと分析している。

5. むすびに

本稿は貿易を起点とする成長拠点の形成の流れを捉え、成長拠点形成の4要素モデルを呈示し、辺境 貿易は分業の利益をもたらすとともに、辺境地域の「開放」に伴う貿易の拡大は、内生的集積のプロセ スを通じて、経済活動は特定の場所に集中し成長拠点を形成させ、都市化の経済を発生させる効果をも つことを明らかにし、また、本稿では、経済的格差の解消、そして持続可能な成長を実現するためには、 従来の貿易パターンから輸出牽引型の貿易パターンへのシフト、いわば一次産品を中心とした資源型貿易から高付加価値貿易への貿易構造転換が必要であると論理的に解明した.

貿易データによる検証を通して、辺境地域東北三省には一次産品貿易と製造品貿易の2つの貿易パターンが存在すること突き止め、貿易は経済成長を牽引したことを確認した。2003年以降、現在に至って、黒龍江省はロシアとの資源貿易が拡大したが、資源貿易を中心とした一次産品貿易には大きな変化はなく、貿易構造は内向き型貿易パターンとなっている。また、吉林省では、鉱物資源の国内向けの供給に加えて、製造品の国内外の貿易量が増えたものの、依然として一次産品貿易を中心とした貿易構造から脱皮されていない。一方の遼寧省は2003年の「東北振興」の推進を契機に貿易構造に変化の兆しが現れ、特に2013年の辺境地域開放政策の実施以降、製造業に外資導入が急速に増え、製造品貿易を中心に対外貿易が拡大したとともに、貿易構造は製造品貿易を主とする外向き型貿易パターンへシフトした。

本稿は、辺境貿易がもたらした利益、経済格差の解消、そして持続可能な成長を実現するため貿易構造の高度化への転換の必要性を論理的に解明しようとしたものであり、貿易データによる検証は大括りのレベルで行われ、より詳細な貿易データを用いて実証レベルでの解明には至らなかったのが本稿の限界である。本稿は、貿易構造の高度化と対内直接投資の拡大相互作用により、製造品生産に特化した企業がこの地域により多く立地することで、循環的な集積のプロセスが発生し、貿易中継地から新たな成長拠点へ生まれ変わっていき、貿易構造の転換は経済格差の解消、そして持続可能な成長の実現を可能にするのであろうと分析しているが、その過程は困難を伴い、技術革新、人材育成、国有企業改革などの面においては大きな課題を抱えている。また、沿海地域や他の地域や都市への若年層の人口流出は深刻であり、重工業の発展と資源の大量消費、資源利用の非効率性問題、環境汚染問題など、経済成長の阻害要因ともなっている。これらの課題への対処ならびに持続可能な経済開発の取り組みを示すには、より精緻化した分析が必要であろう。これを今後の課題にしたい。

注 1): 辺境地域とは他国と国境を接している省・自治区を総称しており、中国東北三省はこれらの辺境地域に当たる.

注 2): 貿易を起点とする成長拠点の形成の流れは自己組織的な成長拠点形成のプロセスを応用したものである. 詳細は、陸(2011)を参照されたい.

注3): 歴史的に残された課題とは、「東北振興第12次5カ年計画」に提示された「歴史遺留問題」という表現を援用し日本語訳にしたものである.

参考文献

坂本是忠(1970)『中国辺境と少数民族問題』アジア経済研究所

藤田昌久(2005)「日本の産業クラスター」日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所『アジアとその他の地域の産業集積比較』Chapter 2 に所収: https://www.ide.go.jp/library/Japanese/Publish/Reports/Interim Report/pdf/2004_04_26_02.pdf(アクセス日: 2023 年 9 月 15 日)

丸山伸郎(1994)『90 年代中国地域開発の視角―内陸・沿海関係の力学』アジア経済研究所

安田知絵(2016)「中国の経済発展における東北地域の役割:GTI 関連諸国との貿易を中心に」『紀要』第4巻, 日本経済大学大学院, pp.103-122 中国東北辺境地域における新たな成長拠点の形成と貿易構造転換(陸、安田)

安田知絵・陸亦群 (2019)「中国東北地域における都市化の経済と貿易の役割」『経済集志』第 48 号,日本大学経済学部、pp.69-80

陸亦群(2011)「新シルクロードにおけるダイナミックキャッチアップの可能性と「ビーズ型」開発戦略」『研究紀要』第24号、日本大学通信教育研究所、pp.125-147

Jin, Qian-yi (2013) 『辺界地域国際協力と辺縁文化区域の戦略的価値』北東アジア歴史財団、pp.77-102

Kim, Wan-joong (2008)「中国と隣接国家の政治・経済的関係強化と示唆点」『北東亜経済研究』第 20 巻第 1 号,韓国北東亜経済学会,pp.201-234

Krugman, P. (1995), Development, Geography, and Economic Theory, MIT Press. (高中公男訳『経済発展と産業立地の理論―開発経済学と経済地理学の再評価』文真堂、1999 年)

Murphy, K., A. Shleifer and R. Vishny (1989), "Industrialization and the Big Push" *Journal of Political Economy*, Vol.97, pp.1003-1026

Won,Dong-wook (2015)「辺境の政治経済学:中国東北地域開発と環東海(日本海) 圏国際協力構想」『亜太研究,』第22巻第2号, pp.27-60

馬戎(2013)『民族社会学-社会学的族群关系研究』北京大学出版社

申桂萍, 胡偉, 于暢(2021)「中国沿辺開発開放的歴史演進与発展新特征」『区域経済評論』第1期, 中国区域経済学会, pp. 144-154

謝立中主編(2010)『理解民族関係的新思路:少数族群問題的去政治化』社会科学文献出版社

楊清震(2005)『中国辺境貿易概論』,中国商務出版社

張植栄(2005)『中国辺疆与民族問題 - 当代中国的挑戦及其歴史由来』北京大学出版社

張麗君(2006)『毗邻中外辺境都市一互能互動研究』中国経済出版社

庄芮,宋薈柯,張暁静(2021)「我国沿辺開放戦略思考:歷史逻辑与推進方向」『国際貿易』第7期,商務部国際貿易経済合作研究院,pp.45-75